

組織せよ

労働者階級に依拠した党建設を

共産主義と労働運動の結合をめぐる諸問題

世界各地で、こうしたカンボジア人の闘いを熱烈に支持し、ベトナム拡張主義者とそれを支えているソ連社会帝国主義者に対する抗議

ア侵略に対し、民主カンボジア政府・人民は、英雄的に決起し、各戦線でベトナム侵略軍を撃破しつつある。民主カンボジア政府・人民の国防衛戦争は、社会主義を守る闘いであるとともに、民族の完全独立と平和を守る闘いでもある。

昨二月ベトナム拡張主義者によるカンボジア

ア侵略に対し、民主カンボジア政府・人民は、英雄的に決起し、各戦線でベトナム侵略軍を撃破しつつある。民主カンボジア政府・人民の国防衛戦争は、社会主義を守る闘いであるとともに、民族の完全独立と平和を守る闘いでもある。

全世界各地で、こうしたカンボジア人の闘いを熱烈に支持し、ベトナム拡張主義者とそれを支えているソ連社会帝国主義者に対する抗議

ベトナムのカンボジア侵略に反対し 闘うカンボジア人民を支持する

3・20集会に結集しよう

3月20日午後6時
ところ 全電通会館ホール

で窮地に追いこまれている。

三月、ソ連社帝は中国のベトナム進攻と同時に日本海・東シナ海で軍事行動を強め、ベトナムのハイフオン港へミサイル級軍艦を入港させた。日本帝国主義政府は、こうした事態にもかかわらず三月一二日、「ベトナム経済援助」続行を発表した。五三年度から四年計画で、三六〇億円の有償・無償の経済援助の目的は、東南アジアの大國ベトナムを介して、ASEAN体制との「平和共存」「一日帝の東南アジアの権益の保障」を確保するためである。

だが、民主カンボジア政府・人民の正義の闘いは間断なくベトナム侵略軍を撃破し、全土を派をはじめ、戦旗派等はベトナムのカンボジア侵略に対し一切革命的態度を鮮明にすることができず、客觀主義的評論しているにすぎない。

こうしてますます色あせて急進民主主義政党は、労働者階級が社会主義を求める、被抑圧民族が民族解放と独立を達成するその事業にかかるべきだ。

二月十日、民主カンボジアのチュン・プラン

ソ連大使が東京に立ち寄り、次のように発言した。「二月二五日に、大規模侵攻をはじ

めたときには、一四個師団だったが、二月はじめ、さし三二五個師団増援してきた」「多数のソ連人、キューバ人の軍事顧問も入っている」

ベトナムは、「カンボジア人同士を闘わせよう」としようとしたが成功しなかった」(「民主カンボジア通信」)

このようにベトナム拡張主義者たちは国内外

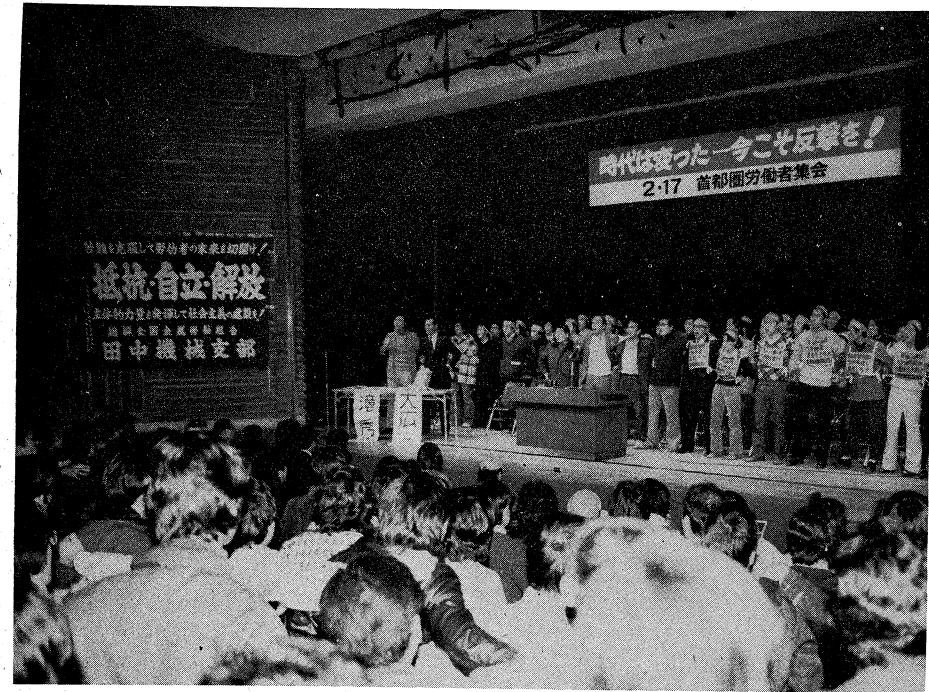
め、さし三二五個師団増援してきた」「多数のソ連人、キューバ人の軍事顧問も入っている」

ベトナムは、「カンボジア人同士を闘わせよう」としようとしたが成功しなかった」(「民主カンボジア通信」)

このようにベトナム拡張主義者たちは国内外

め、さし三二五個師

労働者階級へ宣伝煽動を



激發する労働者階級の決起の中で、プロ独社会主義の宣伝煽動戦に勝利せよ（写真は2.17首都圏労働者集会）

プロ独・社会主義 の政治煽動

さて次に経済闘争の手段としての労働組合についてだが、前に示した觀点さえハッキリしていれば、余りクドクド説明する必要はない。すでにわれわれは仲間の労働者に声をかけた時から経済闘争を開始しているのである。これをいかにしてプロ独・社会主義の政治煽動と結びつけるかだけが問題であつて、その手段として労働組合の合法性を利用するのである。もちろん、日本産業界の反乱のように、こうした手段をとらない（とれない）場合があるうと、われわれは煽動をやめるわけにはいかない。労働組合を

以上の点を考慮して、われわれは、つきのことを承認し大会にこれを承認するよう提案す。

(一)すべての労働組合は、無党派的労働組合の結成を援助し、党にはいつている当該職業の代表者をすべてこの組合に加入させるようしなければならない。

(二)労働組合に加入している労働者に、階級闘争とプロレタリアートの社会主義的任務をひろく理解することを教えるために、自分自身の行動によつても労働組合のなかで事実上指導されるべきだ。

（三）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

(四)経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすことができる。

労働者階級の団結と資本主義批判

こうして「生産過程の疾風怒濤のなかでは生き消されていて」、「労働者の声」が聞こえだし、闘争は具体的に開始され、資本は先にのべたように嵐のような襲撃を労働者にかけてくる。労働者はどのような思想と論理でこれに対抗して、組合結成を守り抜くのか？組合結成は労働者の権利だ」とは、こうしたときに常々くりかえされる言葉だが、これが「現行労働法によって規定されているから」ということだけを根拠として主張される限りにおいては、労働者に力を与えることはならないだろう。資本は、まさにこの労働組合の合法性にふまえ、そして実際には、これをふみにじるのであつて、多くの労働者は、こうした「法のタマエ」と実際との違いについては十分知っている。労働組合の合法性的物質的基盤は、商品交換の法則に従つて運行される労働力商品の売買関係にあるが、こ

等しく商品交換の法則によって保障されている

権利対権利であり、「同等の権利と権利との違いでは力がことを決する」（「資本論」といいう結論がえられるだけである。従つて団結の強化を行なうために「組合の合法性」の規定する「民主主義的権利」に求めたとしても、やはり現実の力関係がことを決するというふうにして、問題は必ずしもどつてしまふ。しかもその

ところの方が、賃金の維持よりも彼らにとって有利（とれない）場合があつと、われわれは煽動をやめるわけにはいかない。労働組合を

考へて彼らを結合する——すなわち団結である（マルクス「哲学の貧困」）すでにわれわれの労働者はここまできている。だが「いつも結束している資本に正面して労働者が組合を維持することの方が、賃金の維持よりも彼らにとってより重要な」（同上）段階までは通例いかない（とれない）。そこにはなぜだろう。そこにすなわち、労働者階級として

一度放り出されるとまどつている労働者のところにもどつて組合づくりからはじめよう。もうひとつの論述は冒頭に述べたとおりである。

（一）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（二）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（三）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（四）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（五）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（六）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（七）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（八）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

労働者の階級的自覚

（九）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（十）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（十一）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（十二）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（十三）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（十四）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（十五）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（十六）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（十七）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（十八）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（十九）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（二十）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（二十一）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（二十二）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（二十三）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（二十四）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（二十五）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（二十六）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（二十七）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（二十八）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（二十九）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（三十）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（三十一）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（三十二）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（三十三）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（三十四）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（三十五）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（三十六）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（三十七）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（三十八）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（三十九）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（四十）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（四十一）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（四十二）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（四十三）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（四十四）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（四十五）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（四十六）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（四十七）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（四十八）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（四十九）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（五十）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（五十一）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（五十二）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（五十三）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（五十四）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

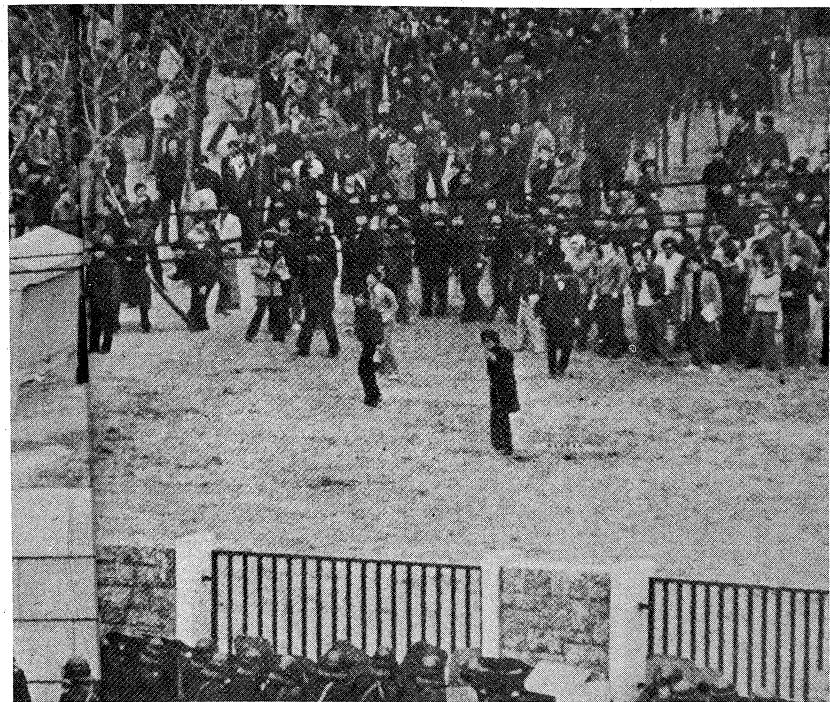
（五十五）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（五十六）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な組織化を強化する結果をもたらすこと

ができる。

（五十七）現在、ロシアの労働者大衆が労働組合に集結しようとする効率をもつめられる。

（五十八）経済闘争は、プロレタリアートの政治闘争と正しく結合することを条件としてのみ、労働者大衆の状態を永続的に改善し、その眞に階級的な



前進する南朝鮮の民主的決起

闘いの前進

この間、朝鮮の南北統一に向けた対話再開の動きが進んでいる。一月一九日、朴は年頭記者会見で「いつ、どこでも、いかなるレベルでも南北当局者が直接会って、何ら前提条件なしに対話を再開しよう」と提案。これを受け、「三・一抗日独立運動六十年」に立つて南北統一について自主・平和・構成された全民族大會を九月に召集、その動きが確認された。また四日にビヨンヤンで開催される世界卓球選手権大会に向け南北統一チーム結成への動きも開始されている。

一九〇八年、食糧と参政権を要求する二二ヨークの女性労働者の闘いに端を発した国際的な女性労働者の決起は、第一インターにおいてクララ・ツェトキンにより、労働者階級の国際的連帯に基づく国際婦人デーへと結美し、ロシア革命の突破口の役割を果たして女性プロレタリアートの階級的任務を刻印してきた。日帝の矛盾が激化しつつある一九一四年、先進的な女工も危機をのりきらんと、今や日本資本主義は「産業構造の転換」を暴力的におこすすめており、今春闘は失業・倒産・雇用合理化の大対決の場にならんとしている。沖電機では、共稼ぎ家庭のねらいうちを行い、「会社に貢献度の少ないもの」で、かつ「今後の厳しい会社施策に耐える覚悟のできない人——職種転換、病弱者・女性労働者への露骨な切り捨てをねらつてきた。

こうした情勢を背景に、昨年一月に労基法研究会により報告書「婦人労働法制の課題と方向」が出され、「過保護措置の撤廃」「男女平等の推進」をうたって、労基法中の女性労働者に対する「保護規定の削除・改廃」を選別し、さらなる分断と競争のつばに投げこまんとしている。

六〇年代以後女性労働者は確実に増加の一途をたどつてきている。この女性労働者の大半が、パート・臨時労働者など不安定雇用・低賃金・無権利の労働力として労働市場の底辺にすえられていることはいうまでもない。

しかも、男女の賃金格差は七六年には対男性比五八・三%で頭打ちになつており、七七年にはむしろ拡大する傾向にすらなつていて、職場における女性労働者の権利取得状況は、生休・育児時間いづれも低下の傾向で、それらの権利のほとんどが無給——欠勤あつかいにされていることである。

妊娠・出産の異状はいわゆる先進資本主義国でも最多国であり、人員削減、合理化の進行にあわせて母体破壊が進行していることを如実に示している。資本家ばかりでなく「企業防衛隊」たる同盟・J.C.労組指導部による監視の下で、ライン女性労働者はトイレに立つことを規制され、ぼうこう炎は職業病にすらなりつつある。差別停年制や結婚・出産退職制度をまつまでもなく、実態として短期でしか働けないような職場状況が確実に増大してきているのである。

一方、女性労働者にとってではなくてはならぬ保育所も、女性労働の増大にもかかわらず、絶対数の不足、保母の労働強化、設備の劣悪さ等、全く貧困な状態にあるといわざるをえない。女性労働者をめぐるこの働き難さは「子育て

性労働者は官憲の弾圧にも屈せずに、日本における初の国際婦人デーを開いたのである。

瓦礫の危機にひんした日本資本主義の存亡をかけた八〇年代——まさに革命と反革命の激突する時代にわれわれは突入しようとしている。

この時につれてわれわれは、女性解放闘争の革新的飛躍をかけて、その旗幟を鮮明にしていかなければならぬ。

命の飛躍をかけて、その旗幟を鮮明にしていかなければならぬ。

何ものももたぬ大量の労働者階級を生み出してきて所有する階級と、自らの労働力を売る以外は化してきた労働力の生産・再生産に関する「家内労働」の紐帯を最終的に破壊し、「私的労役」

化してきた。資本家階級は女性を「私的労役」

一家事労働の担当者として積極的位置づけ、「家内奴隸」として再編強化する一方、女性大衆総体を膨大な半失業者として、時に応じて資本のもとへ狩り出してきた。まさに女性労働者は「家内奴隸」と「賃金奴隸」の二重のくびきにしばりつけられてきたのである。

そしてこの豊富な相対的過剰労働力を「安全弁」とし、資本家階級は労働者間の競争と対立より激化させて、女性差別をテコに低賃金化に

一層の拍車をかけ、あくことなく利潤をむさぼり肥大化してきたのである。かくて女性労働者は男性の「專制支配」のもと、家庭においては労働力の生産・再生産を円滑におこなうこと

を強いられ、職場においては一滴の血も残さぬまでに搾取されるという二重の収奪構造に放りこまれてきた。資本家は職場・家庭・社会を貫く徹底した女性差別の利用と拡大再生産を、その支配構造の底辺にすえってきたのである。

七〇年代はじめのウーマン・リブの登場は、女性に対する歴史的な「專制支配者」たる男性

を告発し、女性差別に屈服した既成婦人運動への鋭い批判をもつて、七〇年代女性解放闘争の先駆的役割を果たした。「男性専制社会」に対するリブの告発・糾弾は、日常の中に埋没し、歴史としてひきつがれて資本主義の下で拡大再

生産されている女性差別をえぐり出し、それゆえ、その糾弾は個人の意識変革の位相のみにとどまらず、女性差別を拡大再生産しつつ肥大化する資本主義への根源的な批判として組織されねばならなかつた。

われわれは、賃金奴隸制を廢絶する主体が、「資本主義の墓掘人」たる労働者階級に他ならず、その運命共同体的な「幻想」をもちこみ、支配の基礎単位としての位置を内側から確定する。

それゆえ資本家階級は、このようないくべき財産をもたない労働者家族にいべき財産をもたない労働者家族には純粹な形でのブルジョア家族

制度は存在しないが、資本制の下で家庭以外に

さらに、われわれは、女性差別イデオロギーの基盤であり、女性差別の温床であるブルジョア家族制度を批判し、これを解体する闘いへふ

り移り、キヤリア・ウーマンと足みなみをそろえて女性労働者を資本に売りわたそうとしている。

われわれは、このようないくべき財産をもたない労働者を資本に売りわたそうとしている。

既成指導部の融和主義・排外主義を徹底的に批判し抜き、労働運動を女性解放で武装しなければならない。

一方、女性労働者の即目的要求に拝跪し、婦人運動を「母性保護運動」と「職場・家庭の民主化」に切りぢめで既成婦人運動指導部は、手をたずさえて、不斷に「專制支配者」としての男性労働者を再生産しているのである。その

指導部、社会排外主義者たちは、権力・資本と

男性の専制支配の歴史に無自覚な既成労働運動

を許す要因であるといえよう。政府・資本はまさに根拠をもつて、女性・女性労働者の

たちとの闘争を組織せざるをえない。とりわけ

女性労働者の経済的要求の組織化、同時に、

女性労働者の経済的要求の組織化



No. 11

11

エンゲルスのこの著作は、序文の中にも指摘されているように、モルガムの研究によって明らかにされた古代から近代に至る社会の發展の歴史を、唯物論的な歴史研究の成果と結びつけることにより、モルガムの全意義を明らかにするものとしてある。そして、それは当然にも、唯物史觀の根幹にかかるものとして、野蛮、未開、文明という文化的諸段階における社会の發展が、ついに國家を生み出すに至る道筋を、規定的要因とする「直接的生命の生産と再生産」の様式の發展との関連で明らかにしている。つまり、この著作を通してエンゲルスは、未だ階級の、そして階級争の存在を知らなかつた社会から始まり、歴史上最後の階級社会たる資本主義社会に至る社会の發展の中で労働の生産性の發展（それは社会的協働の様式に規定されている）を要因としながら、私的所有の登場が、階級対立の根拠を与え、ついには国家の登場を促す過程を、古代社会、未開社会の研究の成果を活用しながら克明に描き出している。

われわれは、この著作を通じて、唯物史觀の根幹を学ぶと共に、「國家の歴史的役割とその意義」、「馬ルクス主義の基礎思想」（レーニン「国家と革命」）をつかみださなければならぬ。なぜなら、この著作は唯物史觀を導きの糸としながら、「國家の起源」を明らかにすることによって、「國家の歴史的役割とその意義」を厳格に示し、そして「国家の消滅」の道筋を明らかにしているからである。そして唯物史觀に基いたマルクス主義の獲得こそは、今日の労働者階級に最も求められている思想的武器に他ならず、国家を何かにすることによって、「國家の歴史的役割とその意義」を厳格に示し、そして「国家の消滅」の道筋を明らかにしているからである。

モルガムの研究によつて明瞭にされた民族的成

果をもとに、エンゲルスは議論を進めていくわけだが、この著作を貫く思想は、序文の中で次のように述べられて

いる。

「唯物論的見解によれば、歴史における究極の規定的要因は、直接的生命の生産と再生産である。しかし、これはそれ自体さらに一通りにわかる。一方で

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11